

令和6年度第1回伊勢市総合計画審議会 議事要録

◆日時 令和6年7月22日（月）19：00～20：30

◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4階大会議室

◆出席委員

下野功純委員、浦田宗昭委員、伊坂弘子委員、竹澤尚美委員、森口留美子委員、河井英利委員、村田典子委員、村田久美委員、西村幸泰委員、伊藤良栄委員、藤原寛仁委員、齋藤平委員、寺和奈委員

◆欠席委員

中村千鶴子委員、山川伸隆委員

◆出席職員

情報戦略局（情報戦略局長、情報戦略局次長、企画調整課長、企画調整課企画調整係長、同主査）
環境生活部（環境生活部長、環境生活部参事）、教育委員会事務局（事務部長）
健康福祉部（健康福祉部長）、危機管理部（危機管理部長）
産業観光部（産業観光部長）、都市整備部（都市整備部長）
総務部（総務部長）、上下水道部（上下水道部長）、消防本部（消防長）

◆議事概要

1 第3次伊勢市総合計画・中期基本計画の進行管理

- ・中期基本計画の進行管理等について、事務局より説明

(1) 分野別計画の進行管理について

≪意見・質問など≫

○分野1 自治・人権・文化

- ・定年延長により自治会役員の高齢化が進んでいる。総連合自治会では、若い世代の方にどのように地域活動に参加していただくか検討を始めている。
- ・目標指標「市民活動団体数」について、人口減少が進む中、数を増やすことを目標とするよりも、若い方を地域活動に巻き込むことに焦点をあてるなど、目線を変えた指標がいいのではないか。

○分野2 教育

- ・目標指標「社会教育施設の稼働率」は、施設の設置数や人口の増減等に影響を受ける。指標の設定について検討が必要ではないか。
- ・国の施策等の影響を大きく受ける分野ではあるが、全体的に、伊勢市としてできること（やりたいこと）を軸とした指標が取れないか。
- ・「子ども読書支援プロジェクト」についてモデル校は何校程度を考えているか。
→3校程度の実施を検討している。

○分野3 環境

- ・伊勢市環境会議では、出前講座や紙芝居など、幼児の頃からごみ問題を身近に感じてもらうための取組をしている。近年は海洋プラスチックの問題にも取り組んでいる。食品ロスについて、皆さんも身近なところから取り組みを。
- ・トイレの“紙さま”プロジェクトに事業所として取り組んでいる。実績はどのような状況か。
→令和5年度は36,342キログラムの資源化を図ることができた。また、新たに3事業所に取り組んでいただくことができた。

- ・食品ロスに関連して、賞味期限の迫った食品などを生活に困窮している方へ配布する事業やフードドライブ事業などは、好評を得ている。そういった取組はごみの減量にもつながる。

○分野4 医療・健康・福祉

- ・困りごとを抱えた方が各相談窓口につながるよう周知するとともに、ライン相談、地域に出向いた相談、自治会との連携など、様々な取組を進めている。
- ・地域の困りごとを抱えている方について、社会福祉協議会や地域包括支援センターをとおして支援が充実してきていると実感している。関係機関の連携がカギである。
- ・くらしの困りごと相談に係る指標について、ハローワークでも認知度が80%程度であるのに対して、令和7年度目標値95%は達成が困難では。
 - 複数ある相談機関のうちどれか一つでも知っているかという設問になっている。1人でも多くの方を相談支援につなげたいという思いから目標を高くしている。
- ・様々な取組を実施している一方で、目標指標「伊勢市は高齢者の生きがいづくりや介護サービスが充実したまちであると感じている割合」は令和4年度から割合が大幅に減少しているが、どういったことが原因と考えているか。
 - アンケートの調査対象は全市民となっており、該当する年代や関係者等に絞ってアンケートを行っているものではないことから、イメージで回答していただいている方も多く含まれていると考える。
- ・目標指標「くらしの中で困りごとがあったときに相談できる行政等が設置する窓口等を知っている市民の割合」について、なぜ相談件数を指標としないのか。
 - まずは相談をすることが次への関係機関につなげるきっかけとなることから、相談窓口の認知度を向上させることが重要であると考えており、現在の指標を設定している。また、相談件数は大事な指標であるものの、単に増える方がいいか減る方がいいか表しづらいところでもある。

○分野5 防災・防犯・消防

- ・防災大学の受講者数は増えているが、防災コーディネーターなどの専門人材を増やす取組を県などと連携し推進を。
- ・自転車のヘルメット着用に係る取組の推進を。

○分野6 産業・経済

- ・農地利用集積率よりも、新規就農者や販売額に係る指標を置くべきでは。
- ・農地利用集積率を指標とした意図は。
 - 休耕地を減らし、耕作地を増やしていく考えのもと設定している。
- ・「伊勢わいん特区」について、他の地域でも過去にワインに係る取組を実施してきたものの浸透しなかった。いつまでにどれぐらいの規模にしていくのか明確なビジョンを。
- ・神宮参拝者数が増加してきているなか、関係機関が連携し様々な取組を進めている。一方で、円安や人材不足などにより事業所の体力が低下してきている。観光客を受け入れる体制の強化が必要である。
- ・人口が減少しているなか、就労支援が重要な取組となってくる。
- ・指標について、有効求人倍率よりも就労支援に係る指標（相談が就労につながった件数など）がいいのでは。
- ・県内における南北の給与格差も課題であると感じている。南三重地域就労対策協議会ではどのような協議がされているか。
 - 協議会では、設置目的である若者の地元就職等についての協議を中心としている。
- ・事業所が急激に減っており、商工会議所としても危機感を抱いている。その多くは、コロナ

助成金で持ちこたえていたものの、返済が出来なくなり、廃業するパターンである。対策として、UIターンの促進などの取組を進めている。

- ・ホテル事業が減っていることから、商工会議所においても取組を進めている。

○分野7 都市基盤

- ・ポンプ場の長寿命化に係る目標指標について、着手を先送りした理由は。
→予算の都合もあるなか、点検結果により早急な着手は必要ないと判断したため。
- ・全国的に地籍調査が進んでいない状況であるものの、大規模地震発生時は大きな課題となることから、推進をしていただきたい。
- ・バスの運行について、利用者数は増加傾向にあるものの、全国的にもドライバー不足が深刻化している。人材を確保し、路線の維持をしていきたい。
- ・空き家対策について商工会議所においても課題と捉え、取組を進めている。
- ・高齢運転者による事故が増えている。高齢者の免許返納率を把握しながら、交通対策の検討を。

○分野8 市役所運営

- ・人事採用試験の早期実施について、その効果は。
→多くの方に応募していただいたものの、一方で新卒の方は併願が多い状況。他市町も同様に取り組んでいるため、さらなる工夫が必要である。

○全体

- ・施策評価と目標指標の関係性についてはどのようになっているか。
→その施策の代表的な指標を設定している。施策評価については、目標指標の達成度や、主要課題における取組・成果に加え、その他の指標や取組状況を踏まえ、総合的に評価を行っている。

(2) 分野横断課題の進行管理について

《意見・質問など》

- ・「③新しい地域のつながりづくり」における「伝統文化の継承」に向かってはどのように取り組む考えか。
→無形民俗文化財の継承について人材確保を課題と捉えている。経済的支援だけでなく、支援ニーズに係る聞き取り調査結果を踏まえ、取組の検討をしていきたい。

2 第3次伊勢市総合計画・後期基本計画の策定について

- ・後期基本計画の策定について、事務局より説明
総合計画と各計画の統合について了承された。